サポート情報記事

# Discussions、クラシック SharePoint ディスカッション掲示板、Viva Engage、Teams チャネル: どれを選ぶか

2026 © Vitextra SIA. All rights reserved.

# 免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

## 免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

## 誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

## フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

## 「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

## お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

# 目次


概要 4

各選択肢の概要 4

クラシック ディスカッション掲示板の現状 5

比較表 6

どれをいつ選ぶか 10

クラシック掲示板からの移行 11

**Discussions** が目指さないもの 12

# 概要

「フォーラムはどこに置くべきか」は、イントラネットの所有者なら誰もが遅かれ早かれ直面する問いです。従業員が質問し、同僚が回答し、その回答が 1 年後でも見つけられる場所が必要になります。Microsoft 365 にはいくつかの候補がありますが、それらは互いに置き換えられるものではありません。この記事では、実務で候補に挙がる 4 つの選択肢、すなわち**クラシック SharePoint ディスカッション掲示板**、**Viva Engage** コミュニティ、**Microsoft Teams** チャネル、Vitextra の Discussions Web パーツを、選択を左右する基準で比較します。フォーラムがどこに置かれるか、誰が閲覧と投稿を行えるか、返信がどのように整理されるか、どのように通知されるか、そしてコストはいくらかです。

> メモ
>
> Microsoft の機能に関する記述は、2026 年 10 月時点の Microsoft のドキュメントとメッセージ センターの告知に基づいています。Microsoft は Viva Engage と Teams を定期的に変更しているため、詳細は最新のドキュメントで確認してください。

# 各選択肢の概要

**クラシック SharePoint ディスカッション掲示板。** SharePoint が 2000 年代から提供してきたリスト テンプレートです。ディスカッションはフォルダー、返信はその中のアイテムで、スレッド表示とフラット表示のビュー、*質問*フラグ、*最良の返信*があります。クラシック エクスペリエンスでのみ利用できます。

**Viva Engage。** Microsoft 365 のエンタープライズ ソーシャル ネットワークです。コミュニティは Microsoft 365 グループで、会話のフィード、ベスト アンサーをマークできる質問、そして有料の **Answers** エクスペリエンスでは全社的な質問ハブを備えます。SharePoint ページには、Viva Engage Web パーツを通じてコミュニティのフィードを表示できます。

**Microsoft Teams チャネル。** 返信付きのチャネル投稿で、2025 年 10 月からはスレッドも使えます。会話は、日常のチャットが行われるチーム内に置かれます。

**Vitextra Discussions。** モダン SharePoint ページまたは Teams タブにフォーラムを

配置する SPFx Web パーツです。カテゴリ付きのボード、トピックと質問、スレッド形式の返信、ベスト　アンサー、フォロー　サブスクリプション、モデレーション、クラシック掲示板のインポーターを備えます。すべてはサイト自体のリストに保存されます。




*モダン SharePoint ページ上の Discussions*

# クラシック ディスカッション掲示板の現状

Web 上の多くの助言では、Microsoft がディスカッション掲示板を「削除した」とされています。これは正確ではなく、計画を立てるうえで重要な点です。2026 年 10 月時点で、Microsoft はディスカッション掲示板のリスト テンプレートを**正式には廃止していません**。実際の状況は次のとおりです。

- テンプレートはモダンの*新規*メニューから**非表示**になっており、クラシック エクスペリエンス (または PowerShell) でのみ作成できます。コミュニケーション サイトでは、*チーム　コラボレーション　リスト*機能をアクティブ化した後にのみ表示されます。
- **クラシック専用**です。モダン Web パーツはなく、モダン ページに配置できず、Microsoft Teams でも開けません。
- **開発されていません**。ユーザー インターフェイス、ビュー、フォームは何年も変

更されておらず、Microsoft 自身のページ モダン化ガイダンスでは、ディスカッション掲示板は「マッピングできなかった」Web パーツとして挙げられています。

計画に織り込むべきは、これに関連する日付の決まった 2 つの変更です。

| 変更 | 日付 | クラシック掲示板への影響 |
|---|---|---|
| SharePoint 通知 (Alerts) の廃止 (MC1072889) | 新しい通知の作成は 2026 年 1 月から段階的に無効化され、通知を使用する機能は 2026 年 7 月から削除 | クラシック掲示板で唯一の組み込みの通知手段である、ディスカッションまたはリストに対する*通知* (Alert me) が機能しなくなります |
| ユーザーが作成したクラシック ページが読み取り専用になる (MC1464926) | 2028 年 10 月 1 日 | ディスカッション掲示板をホストするクラシック ページを編集できなくなります。Microsoft は、クラシックの**リスト ビューとリスト フォームはこの変更の対象外**であり、「別のタイムラインで対応される可能性がある」と述べています |

**警告**

クラシック掲示板は当面は動作し続けますが、通知はなく、モダンや Teams のエクスペリエンスもなく、ロードマップもありません。フォーラムがイントラネット計画の一部であるなら、クラシック掲示板は構築の基盤となるプラットフォームではなく、移行すべきコンテンツとして扱ってください。

## 比較表

| 基準 | クラシック ディスカッション掲示板 | **Viva Engage** | **Teams** チャネル | **Discussions** |
|---|---|---|---|---|
| モダン **SharePoint** ページに配置できる | 不可 (クラシック ページまたは iframe) | Viva Engage Web パーツによるコミュニティのフィード。特定の会話は選べない | ライブのチャネルを埋め込む Web パーツはない | 可。任意のモダン ページ、フルページ アプリ、Teams タブ、個人用アプリ |
| 閲覧と投稿ができるユーザー | サイトのアクセス許可 | コミュニティ (Microsoft 365 グループ) のメンバー。パブリック コミュニティは、そのサイトへのアクセスを*外部ユーザーを除く全員*に付与する | チームのメンバー | サイトのアクセス許可: 閲覧者は閲覧、メンバーは投稿、*リストの管理*を持つユーザーはモデレート |
| ゲスト | サイトのアクセス許可による | *外部ユーザー*機能は 2024 年 10 月 1 日に廃止 | チームのゲスト | サイトのアクセス許可による。追加の設定は不要 |
| 返信の階層 | スレッド形式 (フォルダー + アイテム) | 質問と会話で 2 階層 | 返信。2025 年 10 月からはスレッド | 返信への返信による無制限の入れ子 |
| 質問、ベストアンサー、未回答の一覧 | *質問*フラグと*最良の返信*。*未回答の質問*ビューは既定にできない | ベスト アンサー付きの質問。**Answers** には Viva Suite が必要 | なし (Q&A は会議でのみ利用可能) | 質問トピック、作成者またはモデレーターによる **Mark as** |

| 基準 | クラシック ディスカッション掲示板 | **Viva Engage** | **Teams** チャネル | **Discussions** |
|---|---|---|---|---|
| | | | | **answer**、*Unanswered* ビューと *Answered* ビュー、既定のビューを構成可能 |
| 通知 | SharePoint 通知 (2026 年 7 月に廃止) | アプリ内、電子メール、Teams の通知 | Teams のアクティビティ | ボードまたはトピックのフォロー (*Immediately*、*Daily digest*、*Weekly digest*) と @メンション。電子メールの配信は、サブスクリプション リストを基に作成した Power Automate フローで行う |
| モデレーション | 事前承認なし。他のユーザーの返信の編集にはデザインレベルが必要 | コミュニティ管理者、報告 | チームの所有者 | ボードごとの *Require approval of new posts*、モデレーション キュー、**Report**、ピン留め、注目、 |

| 基準 | クラシック ディスカッション掲示板 | **Viva Engage** | **Teams チャネル** | **Discussions** |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ロック |
| カテゴリとビュー | コミュニティ サイトのカテゴリ。ビューはブラウザーで編集できない | トピック (タグ) | チャネル | ボードごとのカテゴリ。*Recent*、*Unanswered*、*Answered*、*Featured*、*My topics*。タイトルによる検索 |
| コンテンツの保存場所 | サイト上のリスト | Viva Engage サービス (Microsoft 365 グループ) | グループ メールボックスの非表示フォルダー。ファイルはチームのサイト | サイト上の 5 つのリスト: ボード、トピック、投稿、サブスクリプション、アセット ライブラリ |
| **Microsoft Purview** | サイトが持つすべて | 電子情報開示とアイテム保持。コンテンツに対する秘密度ラベルと DLP は非対応 (コミュニティのコンテナーラベルは 2026 年から) | Teams のアイテム保持ポリシー | サイトが持つすべて: 保持ラベル、リスト アイテムの電子情報開示、監査、サイトの秘密度ラベル |
| 提供状況 | クラシック SharePoint | GCC High と DoD では利用 | Microsoft 365 に含まれる | SharePoint Online のモダ |

| 基準 | クラシック ディスカッション掲示板 | **Viva Engage** | **Teams** チャネル | **Discussions** |
|---|---|---|---|---|
| | Online が利用できる場所すべて | 不可。Teams 内の Engage は EDU テナントでは利用不可 | | ン ページと SPFx が利用できる場所すべて。Viva や Teams のライセンスは不要 |
| 既存のクラシック掲示板の移行 | – | インポーターなし | インポーターなし | 組み込みのインポーター: トピック、返信の階層、ベスト アンサー、いいね、添付ファイル |
| 価格 | 含まれる | 基本機能はエンタープライズ プランに含まれ、Answers は Viva Suite に付属 | 含まれる | テナントごとの定額。Standard プランと Plus プラン、30 日間の試用 |

## どれをいつ選ぶか

**Viva Engage を選ぶ**のは、全社的なソーシャル ネットワークが必要な場合です。ストーリーライン、キャンペーン、経営陣への　　Q&A、組織内の誰でも参加できるオープンなコミュニティなどです。対象が「全員」で、コンテンツが構造化されたナレッジ　ベースというより会話であるときに適したツールです。ただし、テナントで有効になっていて、お使いのクラウドで利用できることが前提です。

**Teams チャネルを選ぶ**のは、ディスカッションが作業チームとその日常のチャット

に属する場合です。プロジェクト、シフト、既に Teams で集まっているクラスチームなどです。スレッドは会話をまとめて保ちますが、トピックの一覧、カテゴリ、ベスト アンサーはなく、コンテンツはイントラネットではなくチーム内に留まります。

**クラシック ディスカッション掲示板を使い続ける**のは、閲覧者がまだクラシックページを使っている既存の掲示板に対する一時的な措置としてのみにしてください。新しい掲示板をクラシックで作成すべきではありません。通知はなくなり、モダン ページと Teams は利用できず、それをホストするクラシック ページには公表済みの廃止タイムラインがあります。

**Discussions を選ぶ**のは、フォーラムが**サイト**に属する場合です。部門、プロジェクト、ゲストのいるエクストラネット、コースなどで、モダン イントラネットの他の部分と同じように見え、同じように動作すべき場合です。ページ上に配置され、サイトのアクセス許可とサイトの Purview の範囲に含まれ、何年経っても検索できる構造化されたトピック一覧を持ちます。また、Viva Engage が利用できない (EDU、GCC High、DoD) か、ポリシーで無効化されているテナント、および返信スレッドを失わずに引き継ぐ必要のある稼働中のクラシック掲示板を持つ組織にとっても、現実的な選択肢です。

## クラシック掲示板からの移行

Discussions には、同じサイトまたはテナント内の別のサイトにあるクラシックディスカッション掲示板 (リスト テンプレート 108) 用のインポーターが含まれています。サイトの所有者がページを編集モードで開き、**Import classic board** を選択し、移行元を選んで、まず分析を実行します。ウィザードは、見つかったトピックと返信の数、フラット化された掲示板で親を失った返信の数 (これらは最上位の返信になります)、添付ファイルを持つアイテムの数、以前にインポート済みのトピックの数を報告します。続いてインポートが、トピック、階層を保った返信、ベスト アンサー、いいね、添付ファイルをコピーします。アカウントがシステムフィールドを設定できる場合は、元の作成者と日付が復元されます。インポートされたアイテムにはクラシック アイテムの ID が記録されるため、重複なくインポートを再実行できます。




*クラシック掲示板のインポート ウィザード*

**ヒント**

手順については「KB10417. クラシックの SharePoint ディスカッション掲示板を Discussions にインポートする方法」を、フィールドのマッピングについては「KB10418. インポーターがコピーする内容と返信スレッドの再構築方法」を参照してください。SharePoint Server 上に残っている掲示板については、「KB10419. Discussions を使って SharePoint Server から SharePoint Online へディスカッション掲示板を移行する」で説明しています。

## Discussions が目指さないもの

Discussions はソーシャル ネットワークでもチャットでもありません。ストーリーライン、全社的なフィード、評価ポイント、インスタント メッセージングはありません。それらが必要であれば、Viva Engage と Teams が引き続き適切なツールです。Discussions のボードはそれらと並んで配置でき、フィードでは埋もれがちな、構造化されたサイト単位の知識を保持します。